

ノーサイド

北原 巖 男

ちょうど1か月前、本紙は統幕最先任主催の「統合下士官会同」を報じていました。

さらなる最先任制度の発展へ「統合下士官会同」と打たれた見出しの横では、陸(最先任上級曹長)・海(先任伍長)・空(准曹士先任)・統幕(最先任)の4人の最先任の皆さんが、一緒にカヌーに納まる力強い連帯の姿がありました。

本紙は、各自衛隊の最先任制度は、その名称も歴史も異なるが、その目指すべき互いの目標は言うまでなく、指揮官を適切に補佐し、部隊、隊員の士気高揚を図ることである。統合下士官会同の目的は、統合運用態勢の充実・強化に資するべく、最先任間における課題の共有、関係強化及び理解の促進を図ることにある」と強調。

今回の会同を通じて、さらなる最先任制度の発展と士気の高揚に一層奮励努力していくことを改めて互いに誓い合った」とその意義を挙げています。

同コーナーから見た最先任の皆さんの思いや自戒等の一端です。(筆者、抜粋)

〇「面倒くさいと思うことをしっかりとやらせ、徹底して教えられた。班長から受け継いだ大切な言葉だ」

〇「役割を果たして行く上で必要な要素は、術科に関する高い知識技能はもちろんであるが、やはり、一番大切だと思うのは良好な人間関係を構築できる人間性とコミュニケーション能力であろうと改めて実感している」

〇「人知れずコツコツと頑張っている方に照明を当てるのが私の役目の一つと考えています」

〇「想像もつかないあらゆる任務を遂行する為、夢をかなえる為の「備えよ」を伝えなければいけないと強く思っています」

最先任

〇「隊員に声をかけ、声を聴き、そして部隊指揮官を補佐して任務遂行に努める。隊員が任務完了後に「充実感」と「笑顔」が残るよう尽力する」

〇「私たちの世代から新しい世代に歩み寄り、ともに理解し合える関係を築き上げていく」

〇「状況の変化へ対応しなから延々と繰り返して伝え続け、心と身体へ染みつかせれば、互いの絆が深まり精強・即応へと繋がっていくと信じています」

〇「いかなる状況にあっても指揮官の補佐者として、「真の目的を念頭に、部隊・隊員を「よく見て」「よく聴き」自分で何が出来るかを繰り返して自問自答する」

〇「細部」にこだわり抜く姿勢と行動力をもって隊務にあたる。その一つひとつが責務を果たす為の試金石となり得ると言っても過言ではありません」

〇「隊員たちの先頭に立ち、各階級層のリーダーを育成し、そのリーダーが後輩を育成していく土台作りが必要。この育成に終わりはなく、世代が変わっても目指す所は変わりません」

世界中が驚愕するロシアのウクライナ侵略、北朝鮮の相次ぐ弾道ミサイル発射の実験や核実験再開の動き、そして中国による執拗なまでの尖閣諸島・台湾・南沙海等に対する一方的な現状変更の動き等、激動する国際軍情は予断を許しません。常に国民と共にある国民の自衛隊に対する国民の期待は、急速に拡大し複雑高度化して来ています。こうしたこと等も踏まえ、防衛省はじめ政府は、年内に新たな「国家安全保障戦略」・「防衛計画の大綱」・「中期防衛力整備計画」を策定するための作業を進めています。

そうした真只中に在って変わらぬ自衛隊の根幹は組織は人なり、「隊員」です。

今日も全国の陸・海・空の第一線の現場では、最先任の皆さんが、准曹士隊員の皆さんに声をかけ、声を聴き、とりまめ、彼らとの全人間関係を基盤にした人材育成に努めていることと思えます。自衛隊にはそうした最先任の皆さんの日々の積み重ねがあります。皆さんは、いかなる事態に際しても隊務全般について指揮官を万全の態勢で補佐すべく不断の努力を続けています。

そんな皆さんの多大な尽力に改めて思いを馳せ、心から力いっぱい声援を送りたいと思えます。

最先任の皆さん、頑張ってください！

北原 巖男(きたはらいわお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事